

有形文化財（考古資料）

くりぬしきながもちがたせっかんふたいし
刳拔式長持形石棺蓋石

一基

（データ）

指定年月日（号数）：平成7年3月9日（市指定第8号）

時代：古墳時代後期前半（5世紀末～6世紀初頭） 材質：凝灰岩製（竜山石）

法量：全長270.0cm 高さ56.0cm 内面天井高25.0cm 棺幅 2個の縄掛突起側134.0cm
1個の縄掛突起側123.0cm

所在地：香芝市藤山一丁目 香芝市ふたかみ文化センター前庭

備考：見学自由

概要

この石棺蓋石は、昭和45年8月、狐井城山古墳の前方部北東隅の外堤に近接して南北に流れる初田川の中から発見された。

凝灰岩の板石を加工し、外側を緩やかな曲線をもった蒲鉾形に、内側も四方から緩やかな傾斜曲線をもった状態に刳り抜いて造られている。

石材は、二上山の凝灰岩が近くにあるにも関わらず、兵庫県から運ばれた竜山石が使用されている。このことは、奈良盆地西端部における古墳時代の政治的動向を考えるうえで貴重な資料である。

なお、造りは舟形石棺に近く、このような長持形石棺の特異な形態は他に類例が知られていない。香芝市が全国に誇れる貴重な考古資料である。



縄掛突起部分



縄掛突起部分

以前は、香芝市立下田小学校で保管していましたが、市指定文化財を多くの方々に見学して頂けるように、ふたかみ文化センター前庭に移設しました。

刳拔式長持形石棺蓋石（全景）

